

## 令和 2 年度地方創生推進交付金事業効果検証シート

No.	2	担当課	政策財政課
交付対象事業名	「暮らしたいを創る」異なる地域特性を結びつけるモデル創出事業	事業タイプ	横展開タイプ
総合戦略での位置付け	基本目標：2 本町と多様に関わる人を増やし、新しい人の流れをつくる (1) 観光を入口とした交流人口及び関係人口の創出 (2) 空き家の有効活用による移住・定住の促進 (3) 移住・定住の促進		
事業概要(実績)	<p>平成30年度に(株)ワークヴィジョンズ(代表 西村浩氏)に委託し実施した「まちなか再生支援事業」の取り組みのなかで、参加していた地域おこし協力隊や、まちづくりに意欲のある若手メンバー等のコアメンバーから出されたアイデアをベースに、「高田」「本郷」「新鶴」それぞれの地域が持つ歴史・文化・風土と特性を再認識し、潜在する地域資源から新たなしごと・くらし・産業を生み出し、地域経済の循環を活発化させる「まちやど」と「グリーンクラフトツーリズム」について、町民に事業の理解を深めてもらうとともに、事業をけん引する民間プレーヤーを育成しながらまちづくりビジョンの実現に向けての機運を醸成するために実施した。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、首都圏をはじめとする越県移動を控えるなどの措置を遵守しながら、「まちやど」と「グリーンクラフトツーリズム」それぞれの事業の目的とイメージを共有し、事業化に向けたプロセス、ブランディング・プロモーション戦略等の検討と実践に向けての体制づくりを目的に次の取り組みを行った。</p> <p>1. アフターコロナ時代の「まちやど」と「グリーンクラフトツーリズム」シンポジウムの開催 ・アフターコロナ時代のツーリズムを学ぶ機会を設けるとともに、町の「まちやど」と「グリーンクラフトツーリズム」に向けての機運を高め、目指す姿やターゲット、あり方についての理解を深めるために12月にシンポジウムを開催した。</p> <p>2. 体験型ツーリズムの企画のブラッシュアップ・テストプロモーション及びツーリズムの実施支援 ・「体験型ツーリズム」事業に参加する事業者等の発掘とプログラム作りの支援を行った。with コロナにおける町内ツーリズムの試行として、中止となった「せと市」の開催日にエリアの新たな価値を引き出すことを目的に、本郷地域瀬戸町で「夏のライトアップナイト」を一般社団法人TORCHが主催し、地域の民間団体や黨元、事業所等が参加し開催した。また、12月には地元団体が企画した「瀬戸町クリスマスマーケット」も開催された。 ・新たに着任した「地域おこし協力隊」への体験型ツーリズムに関するオンライン研修等を実施した。</p> <p>3. 民間主体のリノベーション事業及びUIJターン促進支援 ・移住促進事業と連携した民間主体によるリノベーション事業を促進・推進する空き家物件オーナーを対象とした、遊休不動産の再生・活用に向けた支援体制の整備について検討を行った。 ・まちやど事業に携わる民間プレーヤーへの継続した支援を行った。</p>		
経費内容(実績額)	○支援業務委託料 5,214,000円 (1) アフターコロナ時代の「まちやど」と「グリーンクラフトツーリズム」シンポジウムの開催 (1,127,000円) (2) 体験型ツーリズムの企画のブラッシュアップ・テストプロモーション及びツーリズムの実施支援 (2,889,000円) (3) 民間主体のリノベーション事業及びUIJターン促進支援 (1,198,000円)		
総事業費(実績額)	5,214,000円	交付金充当経費(実績額)	2,607,000円
重要業績評価指標①(KPI)	本事業に参画する民間プレーヤーの数	指標値	10
		実績値	11
重要業績評価指標②(KPI)	本事業を通してリノベーションされた物件数	指標値	1
		実績値	0
重要業績評価指標③(KPI)	本事業を入口として本町を訪れた人の数	指標値	20
		実績値	0
事業効果(該当する番号に○)	① 本事業は地方創生に非常に効果的であった ② 本事業は地方創生に相当程度効果があった ③ 本事業は地方創生に効果があった ④ 本事業は地方創生に対して効果がなかった		
判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限を受けた中、本事業に参画する民間プレーヤーが、昨年度は5人増えて11人となり、民間プレーヤーによる地域活性化への気運は高まっている。その内、3名が空き家をリノベーションして、ショップを併設したカフェ、ゲストハウスを開業する計画を進めている。また、そのほかのプレーヤーにおいては、本町への滞在型観光のパッケージ開発に携わっており、次年度以降のKPI達成のための十分な土壌が形成され、本事業は地方創生に相当程度効果があったと判断した。		
今後の方針(該当する番号に○)	① 事業が効果的であったことから取組の追加等に発展させる ② 事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ③ 特に見直しをせず事業を継続する ④ 継続的な事業実施を予定していたが中止した ⑤ 当初の予定通り事業を中止した		
判断理由	引き続きコロナ禍での事業展開となるが、民間プレーヤーによる地方創生への気運は確実に醸成されており、引き続きプレーヤーへの支援を継続しながら、今後の参画者の増加と支援を目的とした環境整備を進める必要がある。		
有識者会議の評価	[事業の評価] (該当する番号に○) ① 本事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ② 本事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効とはいえなかった [意見] 昨年度はコロナ禍の影響もありゲストハウスの運営まで進めなかったこと、又はツアーの実施がなかったことから、指標の一つであるこの事業を通して町外から訪れた方はいなかったが、町民向けのイベントでは100名以上の来場があった。また、民間プレーヤーの指標が5人に対し11人となっていることは、評価すべきことであり、本事業が地方創生に有効であったと評価する。		